

大雨のときどう逃げる_みんなで意見交換（グループワーク）シナリオ

P.	タイトル	説明概要
1	みんなで意見交換	個人ワーク「あなたの「避難」」では、みなさんにワークシートを作成してもらいましたので、今度は、グループワーク「みんなで意見交換」を使って、みんなで意見交換します。 ひとりで学んでいると、疑問・不安を感じることはありませんか。思い込みにより誤解してしまう場合もあるので、みんなで意見交換して、それを解消しようと思います。
2	グループワークの流れ	全体の流れですが、最初に、意見交換をふたつ行って頂きます。その結果を踏まえて、自分のワークシートに修正する点がないか確認してもらいます。 最後に、今日気づいたことや勉強になったことを発表に、みんなで共有しようという流れです。 ここで、意見交換をスムーズに進めるため、ふたつ、お願いがあります。 ひとつ目は、みなさんひとりひとりが、他の人の話に、しっかり耳を傾けてほしいという点です。 話をよく聞いて、良いところを積極的に見つけてください。 そして、それをみんなで共有しようという姿勢で、この意見交換にのぞんでください。 ふたつ目は、時間の厳守です。 意見交換の終わりの時間を示しますので、その時間を意識してください。 限られた時間なので、発言も、長くてひとり1分を目安にしてください。 よろしいでしょうか？ では、さっそくはじめましょう。 ※スライドに記している意見交換①・②の時間は目安です。時間や状

		況にあわせて、適宜修正して構いません。
3	意見交換①災害リスク（水害・土砂災害）	まず、意見交換① テーマは、「災害リスク（水害・土砂災害）」です。 ワークシートの①では、自宅の災害リスクを、ハザードマップで確認しました。 みなさんは、ハザードマップで表現されていない「災害リスク」も考えながら記入したと思いますが、見逃しはありませんか？ みんなの意見を聴きながら、「見逃し」がないか確認するのが、意見交換①の目的です。
4	「災害リスク」のある場所	意見交換を始める前に、どんな場所にどんな災害リスクがあるのか改めて確認しておきましょう。 みなさんは、水は低い方へ流れるというのを知っていると思いますので、それをイメージしながら確認してください。 「川の近く」はあつという間に水位が上昇し危険になる場合もあります。「川の高さと同じ高さの場所」は川の水があふれると、周囲の土地が浸水する恐れがあります。 「堤防よりも低い場所」では、川の水が堤防を越えると、浸水する恐れがあります。 「周囲より低い場所」は、大雨が降ると、周囲の水が集まってきて、浸水する恐れがあります。 最後に、土砂崩れですが、崖や斜面の近くは、上から土砂が崩れてくるかもしれません。 災害リスクがある場所を見逃していないか、を意識して意見交換しましょう。
5	意見交換をはじめてください	それでは、意見交換をはじめましょう。 まずは、自分の「災害リスク」を一人ずつ発表します。 その後、自宅の近くの「災害リスク」に見逃しはないか、グループで意見交換をしましょう。 時間は10分間注です。 注）参加人数等を踏まえて変更可 ※このとき、実施場所の時計で、何時何分までと伝えてください。 それでは、始めて下さい。

		※意見交換の際、このスライドを投影しておく 【意見交換の時間が終わったら】 それでは、時間になりましたので、意見交換を終わってください。
6	命を守る基本中の基本	災害リスクについて意見交換してもらいました。 災害リスクを知ることは、命を守る基本中の基本です。 災害が起こりやすい地形は、地図でも知ることができるので、ぜひ、国土地理院の「地理教育の道宝箱」も見て、知識を養ってください。 今まで見えていなかった「災害リスク」が見えてくるかもしれません。
7	意見交換②避難行動（避難にかかる時間）	次に、意見交換② テーマは、「避難行動（避難にかかる時間）」です。 ワークシートの④では、避難にかかる時間を記入してもらいました。 でも、避難先への移動が、いつも天気の良い昼間とは限らないですよ。 天気が悪い時に移動する場合、どんな危険があるのか、みんなの意見を聴きながら、それを考えてもらうのが、意見交換②の目的です。
8	大雨のときの「避難行動」をイメージ	まずは、イメージしてもらいます。 大雨が降り続き、 道路が川のようになっている。 濁った水で、足下が見えません。 マンホールの蓋が開いているかもしれません。 風が強まって、傘は役に立ちません。 夜になると真っ暗です。 停電して、街灯はすべて消えているかもしれません。 いかがでしょう、みんなで意見交換して、避難先へ向かうに当たって、どのような危険があるか考えてもらいます。 大雨が続き、風や雨が強まり、しかも、夜をイメージしてください。 小さな子どもと一緒に、障がいのある方やお年寄り一緒に避難する方は、それも含めて考えてください。
9	意見交換をはじめてください	それでは、意見交換をはじめましょう。 まずは、どのような危険があるか、一人ずつ発表します。 そのあと、他に危険はないか、グループで意見交換をしましょう。

		時間は10分間注です。 注) 参加人数等を踏まえて変更可 ※このとき、実施場所の時計で、何時何分までと伝えてください。 それでは、始めて下さい。 ※意見交換の際、このスライドを投影しておく 【意見交換の時間が終わったら】 それでは、時間になりましたので、意見交換を終わってください。 実際の災害でも、避難先へ移動中に命を落とす事例は少なくないのです。 今、意見交換したことは、とても重要なことなのです。
10	警戒レベルと避難を促す情報	市区町村が発令する避難情報で確実に避難することが基本です。 でも、外の状況は刻々と変わっていきますので、避難情報が発令されていなくても、気象庁等が発表する防災気象情報を参考に、自主的に早めに避難行動をとることも重要になってきます。 警戒レベルと防災気象情報の関係などを参考に、いつ避難するか、早めの避難について、皆さんで考えてください。
11	雨の状況によっては、危険なことも	一緒に避難する人の状況によって、避難に必要な時間が変わる場合があります。 また、雨風が強くなると、移動に危険を伴う場合もあるので、早めの行動が大事です。 なお、土砂災害や急激に水位が上昇する危険がある川の近くは、急激に状況が悪化する場合がありますので、この場合も早めの行動が大事です。
12	意見交換を踏まえてワークシートを点検・修正	それでは、これまでの意見をふまえて、自分の作成したワークシートを点検してください。修正が必要なら修正もしてください。 なお、点検・修正作業のあと、今日気付いたことや勉強になったことを発表してもらいます。 何を発表しようかも意識しながら、作業してみてください。
13	点検・修正をはじめてください	それでは、はじめてください。 時間は5分間です。 ※このとき、実施場所の時計で、何時何分までと伝えてください。 ※意見交換の際、このスライドを投影しておく 【ワークシートの見直しの時間が終わったら】 それでは、時間になりましたので、終わってください。

		※時間に余裕があれば、意見交換を通じてワークシートの結果が変わった方がどれぐらいいるか、挙手してもらってもよいでしょう。
14	本日のグループワークを踏まえて	それでは、意見交換とワークシートの見直しを通じて、「気づいたこと」や「勉強になったこと」を発表してもらいます。 それでは、〇〇の順番で発表して下さい。 ※発表する順番を伝えて下さい ※時間が無い場合は、進行役が指名して発表してもらってもよいでしょう。
15	(まとめ) 避難行動を考えるときのポイント	おつかれさまでした。 最後にまとめとおねがいです。 まず、避難行動を考えるときのポイントです。 災害リスクをしっかりと認識しておくこと、そして、避難先や早めの行動開始など、避難行動をしっかりと理解しておくこと、です。 そしてお願いは、家に帰ったら、家族など、身近な人と、学んだことを振り返ってほしいという点です。 今回学んだことは、自然災害から命を守る基本的な知識です。 いざというとき、実践できるようにするためには・・・
16	実践できるようにするために①	マイ・タイムラインが有効です。 マイ・タイムラインとは、「いつ」「誰が」「何をするのか」、あらかじめ時系列で整理した自分自身の防災行動計画です。 お住まいの都道府県や市区町村や国土交通省のホームページで紹介しているところもあるので、ぜひ、取り組んでみてください。
17	実践できるようにするために②	また、地区防災計画にもチャレンジしてみてください。 地区防災計画とは、住民等がお互いに支援し合えるよう、その地区に必要なものを、計画として定めておくものです。地域全体の防災力の向上にもつながります。 内閣府が公開している「みんなで作る地区防災計画」で、地区防災計画の作り方やガイドなどがありますので、ぜひ参考にして下さい。
18	おわりに	「自らの命は自らが守る」という意識を持ち、自らの判断で、早めに避難を行う！ いざというときに、焦らないよう、身近にある「災害リスク」をしっ

		かり認識し、いつ、どのような行動をとるべきか、日ごろから確認しておくことが大事ということを忘れないでください！ そして、この教材で学んだことを、ぜひ、周囲の方にも広めてください。 これで、グループワークを終わります。 お疲れ様でした。
--	--	---

気象庁 令和3年春